

■正誤問題 (要点確認 30 問)

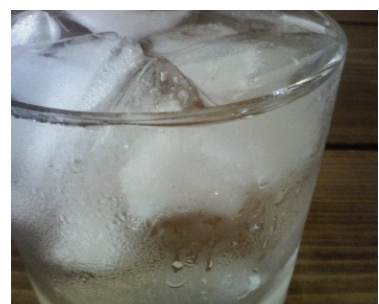
○×で回答して下さい。×の場合は、なぜ間違っているのかも考えてみましょう。

1. 暖房しない部屋の窓を気密化すると、その部屋の換気量が減って、相対湿度が上がるので、結露しやすくなる。
2. 各室間の温度差を小さくすることは、結露防止上有効である。
3. 外壁の内部結露の防止には、室内側に防湿層を設けて、室内から外壁への水蒸気の流入を抑えると効果的である。
4. 外壁の室内側に生じる表面結露の防止には、外壁の断熱が有効である。
5. 通常のガラス窓にカーテンを吊ると、室温が上がるので、ガラス面での結露防止に効果がある。
6. 暖房室を気密化し、非暖房室への水蒸気の拡散を少なくする事は結露防止に効果がある。
7. 冬期において、繊維系の断熱材を用いた外壁の断熱層内に通気が生じると、外壁の断熱性が低下するおそれがある。
8. 外気に面した壁・天井に断熱材を充てんし、断熱材の室内側に防湿材を張る事は結露防止に効果がある。
9. 外気に面した壁に沿って、たんすなどの家具を置くと結露が生じやすくなる。
10. 冬期における浴室の結露防止には、屋内空気を取り入れて、浴室の水蒸気を直接屋外に排出するのが効果的である。
11. 二重窓の外側サッシの内側の結露防止には、内側サッシよりも外側サッシの気密性を高くするほうがよい。
12. 押入れの建具に通気口を設け、布団類を壁から離して収納すると、押入れ内の結露は発生しにくくなる。
13. コンクリート構造の建築物では、外断熱工法を用いると、ヒートブリッジ(熱橋)ができにくく、結露防止に有効である。
14. 夏期における衛生器具の給水管の結露防止には、給水管の断熱被覆が効果的である。

15. 冬期における外壁の内部結露を防止するためには、防湿層を断熱材の室内側に切れ目なく施工する。
16. 暖房機器を窓下やその近くに設置すると、室内の上下の温度差が小さくなる。
17. 外気に接する押入れ内における表面結露を防止するためには、ふすまの断熱性を高くすると効果的である。
18. 開放型石油ストーブを用いて暖房すると、大量の水蒸気が発生し結露を生じやすい。
19. 窓下への放熱器の設置は、窓面の結露防止に効果がある。
20. 保温性の高い建築物であっても、暖房室と非暖房室とがある場合、非暖房室では結露が発生しやすい。
21. 結露は、カビやダニの発生の要因となる。
22. コンクリート構造の建築物では、外断熱工法を用いると、ヒートブリッジ(熱橋)ができにくく、結露防止に効果がある。
23. 外壁の室内側に生じる表面結露は、防湿層により防ぐことができる。
24. 鉄筋コンクリート造の建築物においては、内断熱工法より外断熱工法のほうが、ヒートブリッジ(熱橋)ができにくく、結露が発生しにくい。
25. 外気に面した窓にカーテンを吊ると、ガラスの室内側表面に結露が発生しやすくなる。
26. 二重窓の内側サッシの気密性を高めることは、外側窓における室内側の表面の結露を防止するのに効果がある。
27. 木造の建築物において、外壁の断熱層の室内側に防湿層を設け、その断熱層の屋外側に通気層を設けることは、外壁の内部結露の防止に効果的である。
28. 一般に、外壁の断熱性を高めると、暖房負荷・冷房負荷ともに減少する。
29. 外壁内の断熱材を厚くすることによって、外壁の内部結露を防止することができる。
30. 計画換気を行うためには、住宅の気密性を高めることが必要である。

■正誤問題 解答編

1. 暖房しない部屋の窓を気密化すると、その部屋の換気量が減って、相対湿度が上がるので、結露しやすくなる。
1. ○
2. 各室間の温度差を小さくすることは、結露防止上有効である。
2. ○
3. 外壁の内部結露の防止には、室内側に防湿層を設けて、室内から外壁への水蒸気の流入を抑えると効果的である。
3. ○
4. 外壁の室内側に生じる表面結露の防止には、外壁の断熱が有効である。
4. ○
5. 通常のガラス窓にカーテンを吊ると、室温が上がるので、ガラス面での結露防止に効果がある。
5. × **窓にカーテンを吊ると、窓近くの空気が対流しなくなり、かえって結露を促進してしまいます。**
6. 暖房室を気密化し、非暖房室への水蒸気の拡散を少なくする事は結露防止に効果がある。
6. ○
7. 冬期において、繊維系の断熱材を用いた外壁の断熱層内に通気が生じると、外壁の断熱性が低下するおそれがある。
7. ○
8. 外気に面した壁・天井に断熱材を充てんし、断熱材の室内側に防湿材を張る事は結露防止に効果がある。
8. ○
9. 外気に面した壁に沿って、たんすなどの家具を置くと結露が生じやすくなる。
9. ○



10. 冬期における浴室の結露防止には、屋内空気を取り入れて、浴室の水蒸気を直接屋外に排出するのが効果的である。
10. ○
11. 二重窓の外側サッシの内側の結露防止には、内側サッシよりも外側サッシの気密性を高くするほうがよい。
11. × **二重窓の内部結露防止には、外側サッシの隙間を通して、二重サッシの内部に、乾燥した外気の出入りがあったほうがよい。**
12. 押入れの建具に通気口を設け、布団類を壁から離して収納すると、押入れ内の結露は発生しにくくなる。
12. ○
13. コンクリート構造の建築物では、外断熱工法を用いると、ヒートブリッジ(熱橋)ができにくく、結露防止に有効である。
13. ○ **外断熱工法は、躯体の温度下降を防ぐので、ヒートブリッジが生じにくく、結露防止に有効です。**
14. 夏期における衛生器具の給水管の結露防止には、給水管の断熱被覆が効果的である。
14. ○
15. 冬期における外壁の内部結露を防止するためには、防湿層を断熱材の室内側に切れ目なく施工する。
15. ○
16. 暖房機器を窓下やその近くに設置すると、室内の上下の温度差が小さくなる。
16. ○
17. 外気に接する押入れ内における表面結露を防止するためには、ふすまの断熱性を高くすると効果的である。
17. × **押入れはふすまの断熱性が高いと、居室の温度が暖房によって上昇しても、押入れ内部の温度は低いままなので、結露は生じやすい。室温と一緒に、温度が高くなる方が、結露は生じにくいです。**
18. 開放型石油ストーブを用いて暖房すると、大量の水蒸気が発生し結露を生じやすい。
18. ○
19. 窓下への放熱器の設置は、窓面の結露防止に効果がある。
19. ○
20. 保温性の高い建築物であっても、暖房室と非暖房室とがある場合、非暖房室では結露が発生しやすい。
20. ○

21. 結露は、カビやダニの発生の要因となる。

21. ○

22. コンクリート構造の建築物では、外断熱工法を用いると、ヒートブリッジ(熱橋)ができにくく、結露防止に効果がある。

22. ○

23. 外壁の室内側に生じる表面結露は、防湿層により防ぐことができる。

23. × **防湿層は壁体内部の結露の防止に有効です。壁表面に発生する結露を防止するためには、壁が外気によって冷やされないように断熱することが効果的です。**

24. 鉄筋コンクリート造の建築物においては、内断熱工法より外断熱工法のほうが、ヒートブリッジ(熱橋)ができにくく、結露が発生しにくい。

24. ○

25. 外気に面した窓にカーテンを吊ると、ガラスの室内側表面に結露が発生しやすくなる。

25. ○

26. 二重窓の内側サッシの気密性を高めることは、外側窓における室内側の表面の結露を防止するのに効果がある。

26. ○

27. 木造の建築物において、外壁の断熱層の室内側に防湿層を設け、その断熱層の屋外側に通気層を設けることは、外壁の内部結露の防止に効果的である。

27. ○

28. 一般に、外壁の断熱性を高めると、暖房負荷・冷房負荷ともに減少する。

28. ○

29. 外壁内の断熱材を厚くすることによって、外壁の内部結露を防止することができる。

29. × **外壁内の断熱材を厚くすることは、室内の壁表面の結露防止には効果がありますが、壁体内部の結露を防止することはできません。**

30. 計画換気を行うためには、住宅の気密性を高めることが必要である。

30. ○